

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077600130
法人名	医療法人 三井会
事業所名	グループホームくましろ
所在地	福岡県久留米市北野町八重亀391-1
自己評価作成日	H23年6月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年7月15日	評価結果確定日	平成23年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは自然豊かな筑後川流域にありながら、西鉄甘木線金島駅より徒歩数分という利便性のよい場所に立地し、四季折々の花を楽しみながら生活できる環境にある。ホームに隣接している母体病院や訪問看護ステーションとの連携を図り、利用者の急変時にも迅速に対応でき、安心して暮らせる環境を整えている。入居者には、室内の掃除や料理の盛り付け、洗濯物たたみなど、出来る範囲で役割を果たしてもらい、普通の暮らしを送ってもらうよう工夫している。更に、医療との連携を生活の場にも設け、セラピストによる音楽療法や生活リハビリを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな立地の中で、家庭のように暖かくにこやかな雰囲気のあるホームである。室内は整理され清潔であり、職員も笑顔で生き生きと勤務している。母体病院の協力を活かし、胃ろうの利用者を医学的指導の下、口から摂取できるまでに回復させたり、家族の希望があれば看取りの介護も積極的に行ったりしている。ホーム内での課題点を細かくチェックし、外部からの意見も真摯に受け止め、それを改善しようと日々努力している姿勢は素晴らしく、質の高い施設へと成長している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念は、「普通の暮らしをあたり前に過ごし皆さんとの絆を深めていきたい」。毎朝申し送り時、職員と唱和し理念の共有に取り組んでいる。日々生活の中で出来る方は服を選んだり、化粧されている。又家族が面会され、一日外出されたりとかその日を大切に過ごして頂ける様支援している	職員は各々理念をしっかりと捉え、実践することが出来ている。理念の中にある、「普通の暮らしをあたり前に過ごす」という文言どおり、ホームの中は家庭的で、職員・利用者は笑顔が絶えない一つの家族のように過ごしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等は、区長や民生委員の協力を頂き、情報を共有しできるだけ参加するよう心掛けている。また、利用者と散歩する際は近隣の方と挨拶を交わしたり、季節の野菜を頂いたりする。又小学校の交流会や体験学習の受入等も行われている。	地域性が強く、開所当時はなかなか理解が得られない経緯もあったが、内容の濃い運営推進会議を定期的に行うことで民生委員の協力を得、理解が広まっている。回覧板で地域行事にも参加する関係を築いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域代表にホームの役割や在り方を理解して頂く中、法人全体で取り組んでいる地域の方を対象とした介護者教室にて認知症についての対応や支援方法を説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族等の参加の下定期的に開催されている。内容は利用者の日々の暮らし、行事計画・実績、利用者の状態(介護度・年齢等)・外部評価報告、介護事故、ヒヤリハット、その対策報告、参加者からの意見を話し合いがもたれサービスの向上に生かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度定期的に関われ、参加者も多く内容も濃い。行事やホームの様子等、表面的なものばかりでなく、日々の暮らしの中での問題点なども包み隠さず報告することで、参加者からの真剣な協力を得ることが出来ている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議(2ヶ月に1回)にて事業報告及び横丁たより(広報)等を久留米市に提出している。又、久留米市主催の事業所交流会を通じて、グループホーム・小規模多機能合同勉強会やグループホーム部会にてサービスの質の向上を図っている。	運営推進会議には毎回必ず地域包括支援センター、市役所からの参加がある。ホームで発行する「横丁便り」を市に届けたり、法人で介護者教室を開いたり、中学生の職場体験を受け入れるなどしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかけることも身体拘束になることを理解しており日中は鍵をかけていない。19時頃より安全確保のため施錠を行っている。	夜間以外は玄関の施錠はされておらず、ホーム内にも鍵のかかった部屋等は見られない。食事の際のロングエプロンを使われている利用者はいない。職員は定期的に身体拘束について学習しており、マニュアルも整備され、その知識を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は勉強会、ユニット会議で取り上げている。日々、日常生活の中で利用者の介護等、声かけに注意をはらっている。うっ血、打撲等見逃さず、その対策を取り、家族面会時報告し理解して頂いている。朝、夕の申し送りで報告し防止に努めている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修や勉強会を定期的に関き、職員が家族に説明できるように努めている。ホームでは現在3名の入居者が成年後見を活用されている。	職員は日ごろから、権利擁護の学習を行い知識を深めている。現在、3名の利用者が成年後見人制度を利用しており、学習の成果が生かされている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書の時間をかけて説明している。特に入院時にご家族が心配されることが多いことから、入院の際は十分に説明を行い理解を頂いていると認識している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議の中で家族の意見、要望を聞き又家族に対しては、面会時に聞くなどの対応している。又月に1回介護相談員が訪問されている事を伝え、言い難い点は外部機関に相談できる事を家族に説明している。	運営推進会議には毎回家族の参加があり、面会時や行事の際、職員は家族とよく話すように心がけている。また無記名アンケートを実施するなど、広く意見を汲み取ろうとする姿勢が見られる。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や勤務の中で、出来るだけ職員からの意見や問題点を無視せず聞くように努め、業務内容や職務内容の改善に努めている。	職員は、日ごろから備品の購入などの要望を気軽に管理者に話すことが出来ている。月に1度のユニット会議、法人の介護サービス連絡協議会など発言の場を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は管理者からの報告を参考に、仕事と家庭の両立が可能な勤務表を希望公休や有給を使って作成するよう指導している。その人の良い部分を見つけ褒める事を忘れずに指導している。管理者や職員も仕事にやりがいを持っていると考えている。又経験・年数を考慮して研修への参加が出来るようにしている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	開設時より職員の採用は、グループホームの家庭的な雰囲気作りを考え、性別問わず年齢層も幅広く採用している。職員の専門資格に対する意識が強い。	職員採用には年齢、性別の制限は無い。幅広い年齢層から採用するように心がけており、ホームは祖父母から孫までの三世帯家族のような雰囲気である。料理が得意な職員から調理師免許の取得希望があれば、バックアップするなどの支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重する事を心がけたマニュアル等を整備している。	新人教育の中に人権教育を組み込んでいる。また所属するグループホーム部会でも、同和教育や宗教への理解を深める学習などを行っている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修で職員は新人研修、接遇面、医療面、介護面等の研修を受ける機会を確保している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型（グループホーム・小規模多機能）の交流会を久留米市が定期的に事業所交流会として開催、更に同市介入にてグループホーム部会を設立し、お互いの意見交換会の場を提供して頂いている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に本人、家族と必ず面会を行っている。その際出来るだけお話を伺いし、不安を解消する様に努めている。入居後は環境に慣れて頂ける様、関わりの時間を多く持つようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族との面会を行っている。その際、ご要望、心配に思われている事をお伺いし、不安を解消するように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に話を聞くことでニーズの把握に努めている。関係機関よりの情報収集を行い、カンファレンスを行いその人に合ったケアが出来るように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に対しては、常に人生の先輩として敬う気持ちを忘れないよう努めている。漬物の漬け方など教わる事も多く日常生活の中で自然と嫁、姑、祖母、孫のような関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、現状報告行い、職員は、入居者にとってのご家族の存在の大きさをお伝えしている。家族会や行事等に参加されご本人や他入居者が家族、職員と時間を共有し、楽しまれている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下ご自宅に戻り、泊まられたり、馴染みの場所に行かれたりと支援している。又友人知人の方々へも気軽にホームの方へ訪問して頂けるようにご家族への声かけを行っている。	特に家族の関係を尊重し、家族と共に外泊や旅行の機会があれば快く送り出している。結婚式や法事で家族だけでは不安な場合は職員が付き添うこともある。家族がいない方などは、以前利用していた小規模多機能ホームに職員が同行するなどして支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士は自然と会話が弾んでいる。入居者同士で関わりが難しい方については職員が入ることで孤立しない様にしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もホーム広報誌を定期的に配布したり、ご家族に気軽に電話相談、情報提供行えるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者のご希望や意向を掴んだり、家族より伺った生活歴等により本人が望む生活が送れるように努めている。意思表示が出来ない方はいろんな場面での表情等から読み取っている。	生活歴などを参考にしながら、聞き取りが出来る利用者には希望を聞いている。意志を伝えられない方は表情から希望を読み取り、対応している。胃ろうの利用者を医学的管理の下で、口からの食事に移行することが成功したこともある。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、利用されていたサービス事業所などより情報頂き、出来るだけご本人がのぞまれる生活環境を提供出来るようにしている。例えば本人の希望で毎晩、晩酌されている方も居られる。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録に日々の活動の様子や心身の状況等きちんと記入し各職員が状況把握出来るようにし、ケアにつなげている。例えば朝、本人が目覚められた時に起きて頂き朝食を食べて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時には、ご意見、ご希望をお伺いしている。ご本人には毎日の生活の中で伺っている。又意思表示出来ない方については言動、表情の観察を行っている。毎月カンファレンスを行っている	職員は日ごろの勤務の中でも、介護計画を頭に入れ利用者として接している。家族の意見は面会時の会話から汲み取り、職員の意見は日々の会話やカンファレンスの中でアセスメントや問題点として集めている。それらを基に計画担当者がプランを立てている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や変化をきちんと生活記録に残し、全職員が必ず目を通すことにより情報の共有化を図りケアにつなげている。気がついた事は積極的に意見を出し合い介護計画に反映させている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を聞くようにしている。例えば利用者が冠婚葬祭に出席される際には職員が付き添ったり、病院、歯科等の受診の希望があれば診察を受けられるように支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の生活歴や暮らしを把握し、それに沿った生活が出来るよう支援を行っている。以前参加されていた老人会の方との交流支援も行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を実施している。家族の希望を受け入れ、安心して医療が受けられるよう支援している。又、緊急時の医療機関との連携も保っている。	母体病院は緊急病院として位置づけしており、利用者は入所前の主治医を継続して受診している。往診利用のほか、眼科、皮膚科、耳鼻科、歯科には職員が付き添って受診している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員2名が勤務しており、介護職や関連病院のスタッフと相談しながら入居者の健康管理を実施している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には頻回に病室を訪問し、入居者とのコミュニケーションを図っている。病院関係者からの情報収集に努め、本人や家族の希望受け入れに協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関連病院の主治医、かかりつけの医師との連携を持ち、本人、家族の希望に応じてターミナルケアを実施している。家族が訪問看護を希望される場合は受け入れ体制を整え、訪問看護ステーションとの連携を保ち安らかな余生を送って貰っている	医師、看護師に医学的な支援を受けながら、家族と共にターミナルケアがなされている。現在までに5名の方を看取りしたことがあり、家族も部屋に泊まりこまれ最期を看取ったこともある。亡くなられた際は、見守っていた他の利用者も涙を流されるが大きな動揺もなく、落ち着いて、お見送りされている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがあり、職員は救命救急講習を定期的に受講している。急変時には病院が隣にあり連絡を取り指示を受けたり、往診をして頂いている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに応じて職員には周知徹底している。火災訓練を行い実践している。地震等においてエレベーター内に閉じ込めが生じた場合の対策として専門業者による講義を受け実践している。	消防や近隣の協力を得ながら、年二回のスモークを焚くなどの本格的な訓練がなされている。利用者を階段まで避難させるなどして災害に備えている。西方沖地震の際、エレベーターが止まったため、エレベーターに関する訓練も年1回行われている。	訓練時の避難は階段までであるが、その後駐車場まで避難することが周知徹底されている。しかし火災の際は駐車場は緊急自動車が待機することも考えられ、大震災のようなことも無いとはいえないので、最終的な避難場所（小学校や公民館等）も確認されることが望まれる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりを大切にした対応や言葉かけを行い、職員同士の言葉使いも気を付けている。オムツ交換時には戸を閉めるなどプライバシー確保に努めている。	食事の介助や排泄支援はさりげなく行い、利用者のプライドを保った対応をしている。親しみをこめて方言で話しかけることもあるが、地元出身ではない利用者には違和感があるのではないかと、検討がなされている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より話しやすい雰囲気作り、関係作りを心掛けている。利用者が分かりやすいように説明を行い、決めて頂いている。入居者の考えを指示しその決定を尊重している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間は本人の希望や体調、状態に合わせている。職員の声かけに拒否等があってもお一人お一人のペースに合わせて生活支援を行っている。買物、散歩等も本人の希望に合わせて支援行っている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には特に気を付けている。毎月2回の訪問理髪を利用されたり、希望により職員が散髪したり、本人が望む美容室に家族と行かれる方も居られる。化粧品の購入も支援行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際、野菜の皮むき、もやしの芽摘み等手伝って頂いている。季節の食材を献立に入れたり、入居者の好きな物を聞いてメニューに取り入れている。	利用者は食事の準備を出来る範囲で手伝っている。孫ほどの歳の職員に料理を手ほどきする利用者もいて、家庭的な雰囲気での準備がなされている。料理もおいしく、利用者は笑顔で食事している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えながら献立を立てている。栄養士が確認を行っている。利用者の状態に応じ、食欲をそそるメニュー、食事形態にしている。食欲がない時は本人の好きな食べ物を提供している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔を保っている。義歯の方は週2回入れ歯洗浄で洗浄している。自分で出来る方はして頂き、出来ない方は職員が行っている。うがい等出来ない方はガーゼ等で行っている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツを外し、布パンツ、尿パットへ変更するようにしている。一人ひとりの排泄時間をみて声掛け、トイレ誘導を行っている。トイレの場所が分かるように入り口に書いてある。	排泄の時間などを記録し、一人ひとりのパターンを把握することでトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るように支援している。入所時はオムツ着用で来られたが、オムツが必要でなくなり自然排泄が可能になった利用者も多数おられる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数や量、状態を把握し出来るだけ水分補給や腹部マッサージ等で対応し緩下剤を使わない様にしている。食事も繊維物を取り入れたり、牛乳を飲んで頂いている。運動やテレビ体操等行っている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望により時間を問わず入浴できるようにしている。又拒否される方には時間をおいて声掛けする等タイミングを合わせ入浴して頂いている。	入浴の時間は決まっておらず、利用者が入浴を希望すれば、いつでも職員は速やかに対応し、入浴介助を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ昼寝、就寝して頂いている。ホールや居室で自由に過ごして頂いているが高齢の方は長時間の座位が厳しく居室で休んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理している。処方箋はすぐ見られる所に管理している。会議や勉強会でよく使われる薬については勉強している。服薬して頂く前には日付、名前を声を出して確認を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ等自ら進んでされ、一緒に会話しながら楽しませている。誕生日も一人ひとり手作りケーキでお祝いしたり、毎週1回音楽療法を実施している。天気の良い日は散歩等を行っている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ花見やドライブに出かけたり、ご家族面会時一緒に外出できるよう支援している。	定期的にドライブなどの行事を計画し、生きいきと出かけている。買い物の希望者はホームの買い物に同行したり、隣の病院の売店に付き添ったりして対応している。かかりつけの病院やいきつけの美容室に付き添うこともある。家族が利用者を連れて外食などを希望するときは快く送り出している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理マニュアルがあり、お金はご家族よりお預かりしている。買物等の支払いは出来るだけ職員付き添いにより本人が出来るように支援している。お金を持ってないと落ち着かない方は少額のお金をご家族よりお渡し頂いている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、ご自分でして頂き話して頂いている。年賀状等ご家族への手紙を出せるように支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール等に季節の花や飾り(鏡もち、お雛様、こいのぼり等)をする事で季節感を感じて頂けるように工夫している。居室やホールについてもカーテン等で光を調節している。	室内の温度や明るさは丁度良く、不快な音もない。ホームで作成した季節の飾り(現在は七夕飾り)が配置されているが、幼稚すぎることも無く、落ち着いた雰囲気である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで気の合った入居者同士で会話されたり、居眠り、テレビ鑑賞等、思い思いに好きな場所で自由に過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまでの生活で使われていた物や若いころの写真、家族写真等持って来て頂き、本人が居心地が良いと思って頂ける様に工夫している。仏壇やタンス等持ち込まれている方もある。	居室には使い慣れた家具や仏壇が置かれ、家族が持ち込んだ写真や自身が作成した掛け軸などが飾られている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等全て手すりを設置しており、歩行に不安がある方でも自力で移動できる様にしている。床はフローリングで段差がなく車椅子の方、自力歩行の方でも安全に移動できる様にしている。		